

# 岡山県真庭市



勝山

## (まちづくり団体) 町並み保存事業を応援する会



構成人数：14名（地区内人口約8,000名）

平均年齢：60歳

活動費用：イベント時に江戸時代からお雛祭りの際にだけ作られていた「おいが饅頭」の販売やそば打ちを行って、その売上げを活動資金としている。

## 【まちづくり団体について】

### 1. 活動の目的

住んで楽しいまちをつくる

長続きするためには、地域住民の発案で行政を動かすような活動でなければならないという考えのもと、住んで楽しいまちを目指してまちづくりを行っている。

人から見られ、いいねと言ってもらえることで楽しく活動することができる。

### 2. 団体の若年層

団体発足からメンバーはほとんど変わっておらず、若者の参加もない。

一時、若返りを図ろうとしたが、おじさんばかりのところに若者が入ってきづらく、勧誘は難しい状況にあったので、現在は行っていない。

若者は若者で活動していくことを期待している。

### 3. 関係団体との連携方法

お雛まつりのイベントでは、当初、町並み保存地区でのみひな人形を飾って開催しようとしていたが、噂を聞きつけた隣の新町商店街の女性リーダーから、話を聞かせて欲しいという打診があり、趣旨を説明するとすぐその話に賛同してもらい、計80軒でひな人形を出してもらえることとなった。

普段は町並み保存地区と新町商店街で一緒に話をすることがなかなかなかったが、お雛まつりのイベントをきっかけに、コミュニケーションをとるようになった。

## 1. まちづくりのきっかけ

### 観光客の増加

昭和60年に岡山県で初めて県の「町並み保存地区」に指定され、まちなみの整備や基盤整備が進められた。まちなみがきれいになるにつれ、観光客も増加し、それを目の当たりにした地域住民から地元でも何かできることはないだろうかという声が上がリ、まちづくりを行っていくこととなった。

## 2. まず始めたこと

### 拠点施設整備

観光客と地域住民が触れ合える無料休憩所、イベント空間、地元住民のコミュニケーションの場、様々なシーンで中心となる拠点施設を整備した。この拠点施設は、会が古い空き家を借り受け、会員自らの勤労奉仕による修復を行って完成させた。

## 3. 反対者の有無

### なし

のれんを掲げる際も、お願いしたことは一度もなく、近隣の人々がのれんを出している様子を見て、地域住民が自ら出したいと思い、のれんを掲げている。お雛まつりも同様で、お願いせずとも自然と雛人形を展示する人ばかりである。

頼山亭(拠点施設)



#### 4. まちづくりを行う上での肝

### 自分たちで楽しむ

自分たちだけで活動を行っていても楽しみはなく、人にまちを見てもらっていいねと言ってもらえると楽しく活動ができる。

楽しみがないと継続して活動は行えない。

#### 5. 利用した補助事業

- ・【岡山県】町並み保存地区整備事業補助金  
建物の修景に係る補助
- ・【真庭市】町並み保存地区のれん制作事業費補助金  
のれん制作に係る補助

#### 6. 結果を出すために実施したこと

- ・のれん制作
- ・各種イベント実施

当初は日差しを遮るために掲げたのれんだったが、大きな反響があり、周辺住民に広がっていった。

のれんのそよぐさまは人を招くようであり、現在は90軒程度が掲げている。

その他、全国にどこにもないやり方（玄関を全て解放し、寒い中接待しながら見てもらう）のお雛まつりや空き家を利用してクラフト作家と交流しながらものづくりを行うクラフト市等、勝山の良さを知ってもらうためのイベントを実施している。



## 7. どのような「まち」にしたいか

### 住んで楽しいもの づくりのまち

一番は楽しく生活していけるまちをつくることで、ものづくりの人が集まり、勝山から様々な「もの」が生み出されるようなまちにしていきたい。

## ワークショップについて

### 1. 開催について

通常の会議は月1回定例で開催している。

町家を利用してクラフト作家と交流するイベント「クラフト市」では、コンサルタントに委託して、毎週のように会議を行い、アイデアを出していった。

### 2. 開催曜日、時間の決定方法

#### 定例日時

会員はほとんどが働いているため、毎月の第二木曜日と定めて、会議を行っている。

## まちなみについて

### 1. 状況・規模の変化

#### 歴史の息づくま ちなみが広がっ ている

道路の石畳化や電線類の地中化が実施され、建物の修景も年間数軒ではあるが、毎年整備されており、まち全体に歴史の息づくまちなみが広がっている。

また、のれんを掲げる家も当初は15軒であったが、現在は90軒を超えるまでになり、町家とともに勝山の景観を形成している。

### 2. 来訪者の変化

平日でもまちなみを散策される方が多く見られるなり、お雛まつりのイベント時には約3万人の人が訪れている。

### 3. 滞在時間

来訪者のほとんどは自家用車またはツアーバスで来られ、のれんのまちなみを見て帰られることが多い。

周辺に宿泊施設がないため、宿泊客はいない。

### 4. PR方法

#### テレビ放映

会からのPRではないが、活動を継続することでメディアからの取材があり、テレビで勝山のまちなみを放映してもらっている。（平成26年はBSで3回取り上げてもらった）

## その他

### 1. まちづくりを行って変化した点

#### まちも人も明るくなった

地域住民が気軽に声をかけるようになり、まち全体が明るくなっただけでなく、まちの人も明るくなった。

また、まちを大事にしなければいけないという機運が高まっている。

### 2. 活動地域のPRポイント

#### おもてなしの心

勝山はもともとキレイなまちで、ごみ一つ落ちていないと昔からよく言われていた地域であった。

地域住民には、まちを見てもらいたいという思いがあり、来訪者をもてなす「おもてなしの心」をみんなが持っている。

## 1. まちづくり団体との関わり

### イベント時の 支援協力

まちなみに関してはまちづくり団体が中心となって活動しており、行政はイベント時の備品を準備したり、人的支援を行って協力している。

## まちづくりについて

### 1. 取り組み前の課題

なし

もともと大きな課題があったわけではなく、岡山県の「整備地区」に採択されてまちなみが整備されたことによる観光客の増加で、地域住民の観光に対する意識が変化していった。

### 2. 行政の役割

バックアップ

地域の人々がまちを自分たちでなんとかしていかなければという気持ちが強く、そういった方々の自主的な活動を邪魔しないように、支援協力のバックアップを行っている。

### 3. まちの整備内容

- ・道路整備
- ・公共施設整備
- ・案内看板設置等

岡山県の補助事業により、案内看板の設置や駐車場整備、公共施設等の整備を行い、国の補助事業により、道路の石畳化や電線地中化、観光拠点施設の整備を行っている。

### 4. まちづくりで活用した補助事業

- ・【岡山県】岡山県町並み保存地区整備事業補助金
- ・【国土交通省】まちづくり交付金

# ワークショップについて

## 1. 行政の役割

まちづくり団体による定例会には参加していない。  
町家を利用してクラフト作家と交流するイベント「クラフト市」は、行政が担当として委託金を出しているため、会議に参加している。

## まちなみについて

### 1. 整備後のPR方法

行っていない

平成21年に国土交通省の都市景観大賞「美しいまちなみ大賞」を受賞しているが、現在は特にPRは行っておらず、課題として認識している。

### 2. 地域住民からの苦情

なし

地域住民からの苦情はないが、観光客から通過車両が多いといった対策要望がある。しかし、歩行者天国にするなど普段の生活を阻害するような対策は行わない。

## その後の活動

### 1. 担い手探しへの協力

イベント時の  
移住相談

体験型の観光を目指して、作家さん等に勝山に移り住んでもらい、ものづくりのまちをつくっていかうという動きはあり、イベント時に案内所を設置し、「まちおこし協力隊」による移住希望の相談を受け賜わっている。  
若い人材を育てていかないということは危惧しており、新たな若い団体が生まれて欲しいと考えている。

### 2. フォローアップ内容

補助事業

修景補助やのれん制作の補助は継続して行っている。

1. 活動地域のPRポイント

観光地でありながら、地域住民の生活の場を感じられる

勝山文化往来館 ひしお



アーティストによる展覧会や狂言等が行われる